

旭市新庁舎建設市民会議 会議録

日時：平成 30 年 2 月 1 日

午後 1：30～3：45

場所：本庁舎 3 階委員会室

出席者

(委員)

林英光委員（会長・議長）、埴政美委員（副会長）、平野忠作委員、米本弥一郎委員、高橋渉委員、加瀬浩委員、戸井穰委員、飯嶋直子委員、遠藤依子委員、新行内正巳委員、向後充委員、林修三委員、小関友紀子委員 以上 13 名
欠席 3 名（名取康雄委員、高山和視委員、川上幸枝委員）

(事務局等)

市長：明智忠直、総務課長：飯島茂、総務課副課長：伊藤義一、
総務課新庁舎建設班長：穴澤昭和、総務課新庁舎建設班：高木正博
受注事業者：(株)横河建築設計事務所（中島雅守、新井敏裕、鈴木光洋）
：コクヨマーケティング(株)（森尾雅士、安積杏奈）

【会議 開会】

(市長あいさつ)

新しい年も早いものであつという間に 1 ヶ月が過ぎてしまいました。市民会議の皆様方には初めてだと思いますので、改めてあけましておめでとうございます。どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

今年は本当に例年になく寒さが強いような感じがあります。日本海側は寒さがひどく、大雪などによる、いろいろな障害が出ていて本当に気の毒だなと思います。それに比べて我々千葉県の東部地域の温暖な気候の中で暮らせるのは幸せだなと感じるところでもあります。

そんな中で、この市民会議、新庁舎の建設においては何年にも渡りまして、皆様にいろいろな面でご尽力をいただいていることにつきまして、改めてお礼申し上げます。昨年の市議会議員の改選によりまして、今回からご就任いただく米本議員、引き続きとなりますが平野議員、また林会長をはじめ委員の皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

前回の市民会議では基本設計の素案ということで、基本設計に必要な建物の構造や各階のレイアウトについてご説明をさせていただきました。委員の皆様からは旭らしい日本一の庁舎、これはいつも林会長が言っていることでもありますが、日本一の庁舎はオンリーワンの庁舎ということで、使いやすい、そしてまた地域らしい、ふるさとの旭市を連想させるような素晴らしい庁舎にしていくことだと認識をしております。これにつきましてい

ろいろな所でご質問をいただいたところでもあります。昨年の12月15日から今年の1月5日までの期間で基本設計の素案に対するパブリックコメントを実施しまして、47人からご意見をいただきました。非常にパブリックコメントとしては大勢の皆様方からご意見を頂戴したと認識をしております、庁舎に対する市民の関心の高さが表れていると思っております。

また林会長にはご多用のなか、昨年12月の設計デザインの調整会議にもご出席をいただきまして、日本一の市民の庁舎というご意見をいただき、ありがとうございました。

本日は、このパブリックコメントの結果報告と委員の皆様からいただきました意見、また議会や庁内からの意見などを踏まえた基本設計の案について、新庁舎のイメージ映像も交えて説明させていただきます。映像でも多少見えると思いますが、新庁舎に予定している展望室からの公園やまち全体を見渡せる眺望はきっと素晴らしいものだと思います。この景観にマッチした新庁舎が市民生活の拠点施設として新たなシンボルとなり、この旭市の中核として更なる発展をし、市民みんなで共有できる素晴らしい庁舎となるよう取り組んでいきたい所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(林会長あいさつ)

実は、この旭市はあんまり特徴がないと言われます。その中でこの庁舎は今後の旭のシンボルとなれば良いと思います。そういった意味で、その後のことを考えて次の世代に渡せる庁舎にしていく必要があります。

まず、新庁舎で取り組むデザインの基本思想についてです。デザインとは、あらゆること全部人間のすることはデザインです。日本人はどうしても物事を一つ一つ別々にしますが、全部が総合的にデザインなのです。日本一の庁舎を目指すその意味については、皆さんも既に何度も話しをしておりますので、気になっていらっしゃると思います。新庁舎は後世まで市民に寄り添うものであります。今後50年100年後まで市民に影響を与える、そのようなつもりでやっていただきたいと思います。さらに、それは過去、現在、そして未来への流れを交流しながらつくるのであり、旭というものの誇りを未来に伝えるのであります。他には無いオンリーワン庁舎、日本一と言うとなかなか難しいのですが、旭らしい、他所に無いオンリーワンであること、例えば、その資金が少なくても、それなりことは出来ます。このようなつもりで捉えていただければ日本一ということは非常に分かってくると思います。では、何をすべきかと言いますと、私がずっと40年50年やってきているのは、風土と伝統を活かして未来をつくって行くことです。これを日本は忘れていきます。日本の都市計画や建築の在り方も、これを知りながらパスしています。そういうことを旭ではやって行きたいと思えます。

市民の誇りと向上心の拠り所となる環境計画です。21世紀らしい様々なトレンドがあり、最近はいろいろなことが変わってきましたが、例えば脱炭素革命です。こういう状況は、はっきりと受け止める必要があります。風土・産業・文化・医療・福祉を統合する旭らしい中心拠点です。市役所は市役所だけのことをやれば良いわけではなく、総合的に全てをまとめる場所であるということを市民の方も職員の方も思っています。それをきちっ

と考えていきたい。郷土の天地人を設計に反映し、次世代を育む取り組みです。韓国などでは新しいまちをつくる時、必ず地域の大事なものを取り入れ、残し伝えていきます。日本は世界の中で一番これをしていません。明治維新以降、西洋の真似に専念してきましたから、これを忘れていました。目標は良好な環境の建物づくりと職員の研鑽です。職員の気持ちまで考えます。環境は人をつくります。将来の旭の持続的な生き残りの環境をつくる、その基が市役所であるという意識でやってほしいです。部分ではなく、全体と部分を考える習慣を子供の頃から考えて取り組める学校教育の必要があります。

2つ目は、新庁舎デザインの基本的機能と目的への対応です。これは気持ちの問題が一番大事だと思います。市役所は目先のこと、原理よりもそのことを解決するのが仕事です。それから設計というのは全体一律ではなく、様々な要件がありますけれど、非常に簡単にすべきところ、大事なところ、メリハリをもって取り組みますと削減ができ、様々なものが機能的になります。あっさりで経済的・機能的に仕上げるところ、これが大部分であって良いと思います。次は、新しく時代に合わせた中庸のデザインのところです。最後にオンリーワンを目指した独創的な取り組みのデザインのところです。これを無くすと旭市は何をやったのだと言う話になってしまいます。オンリーワンを盛り込むデザインを必ず入れたいと思います。この3つで、かなり設計も整理されるし、市民のパブリックコメントも整理しやすいです。細かいことではありますけれども、普通デザインするときは、このような項目を検討します。常識を踏まえているかです。常識というのはプラス面もマイナス面もありますけれども、こういうことに市民は非常に厳格なところがあります。我々もそうしていかなければと思います。風土と伝統を活かしているかです。既に21世紀も、もうじき半ばになって、やがて世界でもっとも悲惨な国になるという2050年が来ますけれど、その時にやはり風土と伝統を活かすことが重要であります。ユニークで未来的であるかです。旭らしいか、九十九里があつてツバキがあつて大地があつて、そういうものを本当に活かしているかが大切です。シンプルでかつ複雑性があるかです。対になるもの、こう対立するものが一緒になって初めてデザインが魅力的になります。施設空間の混在・共用活用ができるかです。議会も本当はいろいろなことに使えたら良いですね。一つ一つが別々ではなく、全部お互いに融通し合えるような、例えば文化の杜の中でも他の建物があります。そこと融通していく形でやっていければ、駐車場なんかも使えたりします。そういったことを意図していかないと、あそこにあるからここはいらないという話ではなく、お互いに増やしながらかつて助け合いながら、融通性、柔軟性をもった計画がこれからは必要です。耐久性の大小・多少を分けているかです。防災と言う意味で耐久性は大事ですね。やはり非常に大事にするべきところと簡単なところがあつて、これをはっきりと認識して分けていくべきです。柔と剛、強さと優しさのコントラストがあるかです。こういうのはデザインに必要なことであります。エコ的・有機的・持続的環境であるかです。これはもう日本国中、世界中が今こういった方向に向かっています、その方向で考える必要がある。組織的にシステムティックであるかです。客観的であるかということです。次世代に向けて職員や市民を楽しませる魅力的環境であるかです。21世紀においては、幸せということが一番重要で、それに対してどのように配慮するかということです。テーマは幸せなの

です。幸せとはやはり自分が幸せであると同時に、訪れた人が幸せでないと幸せとは言えないと言う言葉があります。このようなことは実際のデザインに非常に重要でありますし、皆さんが判断する時に、そうになってないじゃないかと言っていただければ修正する必要がありますね。これらは設計の場合は普通にやることなのです。よろしく願いいたします。

議 長：議題(1)について事務局の説明を求める。

事務局：新庁舎建設基本設計(素案)に対するパブリックコメントの結果についての説明。

議 長：かなり細かく意見がきています。私が気付いたところから、最初の1ページの植栽やメンテナンスが過大にならないようにしてほしいという意見についてです。やはり手間をかけることは大切であり、特に旭はそういうことをやっていきたい。そのため、上手に手を抜いているように見えない形で計画していきたい。植栽はむしろとても大切だと思います。

委 員：今の植栽のメンテナンスについてですが、本当に会社の敷地の草取りをするのも大変です。緑は大切ですが、スポーツの森や道路を見ても草が生い茂っていて、他の市町村と比べても少し酷いなと思うときがあります。植えるのは良いですが、その後のメンテナンス、誰が抜くとか、木をどうするかなど、植えるからには、メンテナンスをしていくことがとても大事ではないか。旭の道路際や施設を見てみると、それがなされていないので、私はそこが一番問題ではないかと思いました。

議 長：最近良く言われているのは、道端の雑草でさえ風に揺られて美しく、木を植えるよりも良いのではないかと思います。

事務局：まさしく公園との一体的な活用ということでございます。メインプロムナードが真っ直ぐ500mありまして、イチョウの木、まだ小さい木ではありますが、恐らくその季節には素晴らしい黄色の絨毯ができるのではないかと思います。庁舎の1万㎡の敷地内には、ロータリーや駐車場の裏側に一部の植え込みなどを検討しています。そのあたりの管理は行っていきますが、そこだけで済む話ではないため一体型の管理をしていきたいと考えています。

委 員：15ページのその他のところですか。建設工事で地元業者を使ってくださいという意味かと思いますが、やはり、この地域は仕事が非常に少なく、相当遠くまで行っているとのこと。この旭市の市役所は最後のビックプロジェクトだと思います。JVですので全部とは言いませんが、ある程度は地元業者の皆さんが入れる

ように配慮していただきたいと思います。会社も給料を上げて税金を納めてもらい、そして旭市の発展につながれば非常に良いのではないかと思います。そういう意味でもこちらは切実に感じられます。

事務局：その他という分野で地元業者をとのお話がございました。まさしくプレキャストPC造、要は工場で生産したコンクリート製材、精度も高いし、工期なども短縮できるようなものです。良い意味で考えて、市内業者との協力も得られると思っていますが、そのプレキャストPC造は、色々地盤との関係があって、その部分を鉄骨造にします。結果的に、それがJV等になれば、地元業者にどのくらいの効果があるか分かりませんが、ご理解の程お願い申し上げます。

委員：10ページの25番の防災関係ですが、この前の震災が3日だったからと言って、もっと大きい災害があったときに、本当に心もとないのではないかと。災害のリスクを考えて、もう少し対応するべきではないかと思いました。それと、地下に避難所があることに不安をもっている方もいらっしゃるようです。実際に津波が来たときに地下に避難所があって大丈夫なのか、旭は震災で被害があった市ですので、万が一、もっと大きい災害があったときに、先ほど50年100年後を考えての市庁舎にするお話がありました。もっと大きい災害がないとは絶対に言い切れないと思いますので、私たちの子孫が助かったとだけ思っていたらいいようなものを、これだけのお金をかけてつくるので検討していただけたらと思います。

議長：単独でしようとするとなんでもないことですが、近隣との連携がこれから重要になってきます。これをひとつ視野に入れてやっていきたいと思っています。

事務局：現在、市は地域防災計画がありまして、例えば飲料水や食料についての備蓄は3日、燃料も3日ということで計画をしております。前回の3・11の震災の時には、いろいろな市が支援してくださりました。現場を回った際に、確かに一部ガソリンが止まっているなという部分もありましたが、市内のスタンド等から、すぐ協力があって市役所や病院、消防含めて優先的に給油してくださりました。当然大きな災害があったときに旭市だけでなく、近隣の市からも応援体制がございまして、これを3日以上備蓄をすれば費用的にも無駄が出てくるのかなと思います。3・11以上の大きな災害が無いとは絶対に申し上げられませんので、しっかりと考えていきたいと思っています。

議長：旭市も地域がいくつかありますが、地域としてお互いに普段から影響するような、やはり皆さんどうしても自分の市町村の中での話で終わってしまい、なかなか繋がっていかないとも思います。市民としては繋がっていることもあります。

委員：防災関係ですが、どこが防災のバランスの落としどころか、要するに備蓄量を長く大きくすることは良いことですが、どういう弊害があるのか、備蓄の場所を確保しないといけないでしょうし、それに対する対応もあるかと思います。市では防災計画を作りました。これは3・11の後に作ったもので、この3日の説明をと思いました。この防災計画の中では、ただ単に3日ではなくて、3日の後がどうなるのか、なぜ3日なのかといった話がかなり細かく入れてありました。東総圏というある程度の広域エリアで対応することも、防災計画には入っていました。我々の心配の中でどこが落としどころなのかということがありますので、そのあたりをしっかりと伝えて行きたいです。防災計画に3日があるよということではなく、防災計画の3日の根拠を取り入れたらよいのではないかと思います。

議長：市民が安心できるように伝えていければよいと思います。

事務局：東総圏という話もありましたが、まずは千葉県全体でこういった災害があった場合には、協力しましょうという協定が県レベルで結ばれております。3・11の後では、例えば近くの銚田市や大洗市もまさしく原子力発電があつて、茨城県と千葉県との協定の中で、いざというときに支援するという事で協定を結んでおります。それは一方的に受け入れるということではなく、近隣の市でも協力を強化していくことであります。なぜ3日ということですが、3・11の際は協定など無い中でも、日本国民は大変優しいです。いろいろな部分で翌日には沢山の支援が届きました。備蓄は多いほうが良いという論法もありますが、よろしく願います。

委員：なぜ3日と言いますと、人間72時間以内であれば何とか助けられるということです。そこで1日人間が必要とする水も3リットルで、全ては3なのです。3日間我慢すれば助かります。国も基準を3としています。先ほどの植栽の話ですが、新庁舎で市の花、市の木とうたってありますけれども、毛虫とかで手がかぶれたら大変かと思えます。その点を踏まえて検討したほうが良いかと思えます。

議長：ツバキは、そういうこともあります。しかし大変なことをやっていくのが伝統であるのではないのでしょうか。3という数字もそうですが、融通性を持って話し合っていきたいと考えています。

事務局：例えば現庁舎玄関前にもクロマツとツバキを植えています。市の木、市の花は合併時に決定されたもので大事にしたいと思っておりますが、それを新庁舎に大々的に植えるという考えを持っている訳ではございません。周りにも公園がありますので、その一角かも分かりませんが、例えばこれから育ってくる子供たちも市の木、市の花、ふるさとの木、花の中で育っていくことが大切かなと思っておりますので

検討とさせていただきます。

議長：デザインと調和をさせ、その地域に相応しい風景となるように見せることが必要です。この融通性を持って、ムードが出るような計画をしていくべきかと思いません。

委員：2ページの22番ですが、禁煙を検討しますという市の回答になっていますが、禁煙、今問題になっていますが、何かしらの場所をつくっていただきたいと思えます。禁止したところでも、どこかしらで皆さんタバコを吸っていて、煙が流れてきて、すごく気になりますので、何かしらの場所をつくっていただきたいと思えます。

議長：非常に難しい問題です。ずっとこの何十年ある問題です。ゴミ箱もそうですね。その按配も難しいですね。そうしますと、オンリーワンの庁舎となるかもしれません。

事務局：検討とありますが、確かに、完全禁煙にしますとどこかしらで吸ってしまうかもしれません。現在医療機関、クリニックなどは、当然敷地内完全禁煙にしないと診療報酬がいただけないということで、そうされているわけであります。旭市は産業の中で、タバコ農家の方もおられます。しっかりと受動喫煙に配慮することができれば、設けたほうが良いのではないかと個人的には思いました。

委員：ガラスの外観について、使用面積が多いことを心配されている方、メンテナンスだとか、コスパだとかそういったことを気にしているコメントがあったりするのですが、税金を使っているのだから、皆さん気にされるのではないかと思います。自分の家や会社もガラス面が多くて、冬の昼間は良いのですが、こういった日は寒いんです。非常に密閉性が悪く、清掃コスト、暖房コストがかかります。庁舎同様、自宅は吹き抜けで、うちを設計した設計士さんが次の家は絶対に吹き抜けは止めたほうが良いと言ったそうなのです。非常に暖房コストもかかるし、上のものが壊れたときにどうやって修理するのだろうと困っています。10年20年後もコストがかからないような低コストで済む建物を望んでいるのではないかと思います。今後人口減もあります。その中でも、この維持費がかからない建物にすることが非常に重要なのではないかと思います。

事務局：ガラス面の清掃など、ガラスを多用しすぎるのではないかとこのことですが、お示した図面よりももう少し絞り気味で計画しております。市民の方をお迎えするような場所なので、あるところは絞って、メンテナンスの大変な部分もあるかと思えますが、見せるところを見せて行きたいです。ただ全面的にはなく、ポイ

ントを絞ってと考えています。ガラスの仕様ですが、ガラスのなかに遮熱フィルムを入れる断熱ガラスもあります。完璧ではないですが、そういったところで対応していきたいと思います。それと、吹き抜けの電球交換ですが、少し前までは昇降式の照明器具が一般的でしたが、最近ではLEDが普及して来ていますので、基本的には8年から10年は取り替えないで大丈夫だろうというところで高天井部分はLEDを使おうと思います。

委員：うちの建物は平成9年なので、かなり電球交換があるので、これだけの高さが必要なかと思います。吹き抜けはかなり冷暖房費用がかかるのだろうなと自分が経営者なので、そういう面は気になります。

議長：人間の幸せは両極端でありまして、非常に難しい問題ですね。
次の議題(2)について事務局の説明を求める。

事務局：新庁舎建設基本設計(案)についての説明。

議長：免震から耐震、地下駐車場の話など、いろいろあったかと思いますが、いかがでしょうか。

委員：20ページの図の庁舎の屋上にヘリサインがありますが、こちらにヘリコプターは降りてこないですね。隣のセンター広場がヘリポートとなるのですよね。

事務局：ヘリコプターが飛んできた時に場所が分かるようにサインを設けるものです。

委員：場所を示すサインということですか。そうしたらそこを少し分かりやすく書いてほしいです。

委員：3ページの(2)建築概要です。建築が免震から耐震に変わりましたね。それは良いかなと。プレキャストPC造と鉄骨造の大きな違いを教えてください。

事務局：従来はプレキャストPC造としておりました。プレは前もってという意味です。キャストは工場で作るということ。PCというのは、プレストレストコンクリートでコンクリートに前もって緊張を与えるといいますか、現場打ちではなくて工場で作るということ。例えば橋げたとかに用いられ、工場のなかで適切な温度・湿度で管理され、相当精度のよいコンクリートができ、現場的にもまったく別のところでの作業となるために工期的にも大分楽だということで採用しておりましたが、通常の鉄筋コンクリートより1割ほど高いということも言われておりました。その中で今回、鉄筋コンクリートではなく、鉄骨造

とさせていただきますのは、現場の地質が地下20m～40mのあたりで軟弱な土質があったからです。上層部が相当重いと、液状化だとか、そういった対応も必要となるということで、ある程度建物のほうを軽くしたいという思い、それが建築費の削減にもなる。当然鉄骨造であっても安全安心が十分担保できるというお話でもあります。当初概ね50億の中で対応できるのであれば、より安全なほうでと思っておりましたが、土質が軟弱ということで、そちらに事業費を費やすとすれば、他の部分は検討せざるを得ないということで、鉄骨にさせていただいたということで、ご理解いただければと思います。

議長：免震から変わったということで、デザイン的にも全体が変わっていくと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局：従来のプレキャストPCであれば相当な強度がありますので、柱間で十分な広さがとれるということで、以前説明したかと思いますが、設計者によれば、鉄骨造でもお示しした柱間隔で大丈夫だということでございます。基本的なデザインは変えないということで考えております。

議長：中の構造とデザインは繋がってくると思います。中の鉄骨らしさを活かすということのひとつの案として考える必要があるかと思います。

委員：鉄骨造の話ですが、この平面図で柱の位置がありますよね、これが鉄骨になるということ、それから梁構造になっていた免震が、全部壁構造になって、壁でくっつくということですよね。そういったところから、いわゆるこの芯になるものが何かと言う形で、それに応用した利用観点がありますよね。例えばスパンとかの間の部分の壁が無いような状態で計画ができますとかね。もしその長さが変われば、断面が大きくなってH鋼の幅が大きくなるという構造になっているかと思います。そういったバランスの中で検討していただければと思います。

事務局：平面の中に落とさせていただいている黒い四角、これはもともとのプレキャストPCの場合でも同じ位置に落ちておりました。今回鉄骨に変えても、このスパン計画は変えずに確保できます。プレキャストPCの時は、あらかじめ圧縮力を梁に与えて、普通の鉄筋コンクリート造の2～3倍のスパンを延ばそうというのがもともとの計画の趣旨でした。今回鉄骨造に変わっても、同じスパン計画というのは、特に難しい技術を使わずに可能になります。普通の鉄筋コンクリートでつくると、柱がこの倍の数が落ちてくるのをできるだけ広いスパン、柱間隔をとって、将来的にもフレキシビリティの高い執務空間が実現できますという考えは踏襲し、プレキャストPCから鉄骨造に変えても同じスパンでの計画を進めて参ります。

議 長：免震のときは、揺れが来た時に安心感があるという話でした。そのあたりはどうなりますか。実際に旭は被害が出た地域ですから、そこを鉄骨造にした場合、どの程度差が出てくるのでしょうか。

事務所：耐震設計でも、建築基準法上の1.5倍の耐震性を確保するような用途係数を見込んで設計しますので、大きな地震が来ても決して壊れるというようなものでは当然ございません。ただ免震構造のほうが、避難してきた方が余震で次に揺れたときも強い揺れを感じないので、安心感があるというご説明をしました。家具の転倒とかも免震構造のほうが、有利であるのご説明しました。そういう面でもやはり、家具の転倒とかは免震に比べたら多くなります。ただそれが、建物が壊れるとかそういうものには繋がらないというご説明を今させていただければと思います。

議 長：こういった地域は被害を経験していますし、そのあたりでも旭市の市庁舎が防災を先進的な考え方をもって伝える。それを建築経費削減のためということもあって、免震をやめたからには、考え方において防災とか安心とかきちとしたものを盛り込んでいかないと、普通だなと言われては困ります。そちらは、全体のデザインにも関わってくるし、こうなっていますよと言うような期待以上の庁舎を造ってほしいです。そうしないとオンリーワンにならないと思うのです。

事務局：市民会議でも、より安全安心のためにということで、従来免震にしたところがございます。当然、耐震よりは免震の方が余震でも揺れが少なく、業務継続計画ではありませんが、しっかりしているということは重々承知しておりますが、耐震と免震では3億円ほど事業費に差があるということで、先ほどもご説明しましたとおり、地盤に軟弱なところがありまして、そこを強化しなくてはならない、そこには事業費がかかる中で、そこをあまり大きくしますと市民の税金を投資する中で、先々市民会議で報告しても、市長に報告をしても、議会の方も庁舎建設に向かっていけない。市民の声もパブコメもある中で、そういった経緯を踏まえて変更したということをご理解していただきたいと思います。

議 長：後になって、ああすれば良かったなということはありませんよね。特にこういう新しい建物は、未来に対するビジョンがあって、どのように示していくのかということがありますよね。オンリーワンということを最後まで、大変ですが協力してつくっていただければと思います。

委 員：免震の良い所は高いビルで振動の揺れが来た時に、大きく波打ってしまうという部分を無くそうということで、下と一緒に揺らそうという考えなどの特徴があります。安心してみんなが来られる場所だということだから、揺れても耐震上は大

丈夫なのです。それと高層じゃないから、ましてや5階部分は展望台で軽い構造物になっていて、大丈夫ですよという安心感だとかを持ってもらわないといけない。そして、オンリーワンの配置とかで良いものになってくるということを上手く強調できれば、市役所のほうからもそのあたりを市民にPRしていただいてもえればと思います。そうすればオンリーワンが実現するのかなと思います。

議 長：一つの事案として、昔の大名とかは、以外と省資源とかそういうことを考えています。一方で下の方の大名はきんきらきんなんです。一つ上の体系の大名は意外とシンプル、一番上の持ち主の将軍とかは墨でもって地味なのです。上に行けば行くほど地味にしている、この思想は非常に良いなと思いました。例えば議会とかにおいても普段は使わないのだから、きりっとした議会もあるけれども、そういうような思想を盛り込んでほしいと思う。他の仕事でも、社長の部屋は簡単で良く、一番ワーカーの人たちの部分を綺麗にしたら彼らは一生懸命働いたのです。そしたらその会社は業績が上がり、求人も来たということです。そのあたりの発想が、オンリーワンとは違う形で良いですが、シンプルで旭はなかなか素晴らしいとかそういうようなポリシーを耐震免震の話の延長線上で実現してもらえればと思います。

事務局：やはり地盤面絡みで費用がかかってしまうものを、総額がある中で、どこかで削ってバランスをとらなくてはいけないという時に、やはりここにはお金をかける、ここにはかけないというメリハリは必ずつけて、最終的には総額の中で収めるということが私たちの使命だと考えていますので、今後とも協力いただいて進めていきたいと思っています。

議 長：省資源とか、いろいろなことがあると思いますが、その中でも旭市はこういうふうにしたのかという新しい工夫が欲しいと思います。その他にご意見ありますか。

委 員：4ページの駐車場のところですが、旭駅のロータリーを思い出しまして、非常に駅のロータリーで、朝の子供の送り迎えで困っています。そこと構造が似ていて入口と出口が一箇所、入って行って駐車する車と入って来る車が同じ通路ということで、道路に余裕があるのかは分からないのですが、ロータリーの周辺とかも人を降ろしている車が止まっても余裕で通れるのかとか、車庫入れしている車があっても通れるのかとかそのあたりの広さ的なイメージが分からないのですが、旭駅は危ないという意見が多いので、そのあたり比べてどうなのかと思いました。

議 長：そこには高齢者、子ども連れなどが来ます。そのあたりはどうでしょうか。

事務局：今の計画は旭駅のロータリーとほぼ同寸法です。この中央に大きな緑があるのですが、その大きさを小さくして少しでも道路幅を確保したいと思っています。具体的には、庁舎の前が9m幅のロータリーです。その他の幅は8mになりますので、やはり止まっていたら横がすれ違いづらい、扉が開いたら通りづらいのではないかと思います。そのあたりを参考にしますので、よろしくお願いいたします。

委員：今の駐車場の話、ロータリーを使う基本的な考え方が浸透していないのですよ。車がロータリーの中に止まってしまったり、右側に止めたりするのです。そのロータリーから出て行って、出口に向かって一方通行で良いのですが、地下の駐車場に行くのにここを横断するようになっていきますよね。入口から入ってきて、ロータリーが左、地下駐車場に行く車が右に曲がります。これをやめさせて、全部ロータリーを回ってから入って行くようにすればクロス事故が無くなると思います。出てきた車は全部左に曲がるようになりますので、そこに配慮すればかなり使い勝手が変わると思います。

議長：カーブのところに老人とかがいると危ないですね。

委員：例えばアウトは左に曲がる車と右に曲がる車、両方向へ出て行きます。道路の右左折ラインを載せてもらえれば、非常に解りやすいのではないのでしょうか。

議長：以前もこういった話がありましたね。いかがでしょうか。

事務局：出入口の幅は協議の中で決まってしまうので、これ以上、敷地に対してつけるとか、もっと広くするとかは警察との協議の中で難しくなっています。最大いたただいた中で安全を図る仕様、入口と出口の間でハッチをして、そこで交錯しないで、より直角にいけるように配慮をしています。ただ出るとき入るときに左折だけでなく、右折もあるということは理解していますので、そこに関してはもう少し内容を考えさせていただければと思います。もう少し入ったところを広めに取って行って、入ってすぐの下のところ緑が広めにあるので、そちらに駐車スペースを少し押し、道路に余裕を持たせるなど検討します。

議長：上の方の三角形の緑地があって、ずっと駐車場が2列になっていますけども、この入口はどうなのでしょう。

委員：大型店舗と同じで、出入口は1箇所のみと決まっています。道路法でも決まっています。事前協議しまして、県と協議すれば、これは完全に信号機がつくような場所なのです。そういうことをどんどん進めて行かないと、ここで図面を見なが

ら協議していても進みませんよ。事前協議が絶対必要ですので、そういったことを進めていくべきだと思います。

委員：万が一火災とかが発生して、どこから避難するのかなとかそのあたりが分からなかったのを教えてください。

事務局：当然建築基準法を守って、避難経路や階段の数を計画しています。万が一の際は2方向に逃げられるように計画しています。片方の階段がふさがっても、もう片方の階段を利用できたり、途中で煙がきても、止められるような防火戸をつけたりしています。さらに考え方を広げるとすると、避難器具ということもありますので、そのあたりの設置も含めて考えて行きたいと思います。安全性に問題があるような設計はしておりませんので、ご理解いただければと思います。

議長：以上でよろしいでしょうか。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。本日いただいた意見を含めまして、議会へも報告させていただきます。次回の市民会議は3月20日を予定しております。

議長：本日の会議を終了する。

【会議 閉会】